

第11回真宗大谷派ハンセン病問題全国交流集会に向けて

イタイイタイ病について ～患者・家族への偏見差別の視点から～

2019年9月に「第11回真宗大谷派ハンセン病問題全国交流集会」が富山県において開催されることになり、私たちがその意義を確かめる話し合いの中で、このイタイイタイ病のことが浮かび上がってきました。

私たちは、過去にここ富山で起こった悲惨な出来事としてその概略は知っていても、病をその身に受けた人々や、その家族親族の方々がどのような苦しみを生きてゆかれたのか、そのことにはほとんど思いを寄せてこなかったのではないのでしょうか。

病の痛みとはどんなものか、また病そのものとは別のどんな痛みを負わされたのか。このことはハンセン病と共通する問題だと思われます。皆さんとともに、聞きひらいていきたいと思います。

【期 日】 2019年1月21日(月)

【会 場】 富山東別院 1階研修ホール

【講 師】 たかぎ くにひろ 高木 勲寛 氏 (神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会代表理事)

こまつ まさこ 小松 雅子 氏 (県立イタイイタイ病資料館語り部)

【対 象】 どなたでも

【日 程】 13:00 受付

13:30 開会

13:40 講演① 高木勲寛氏

14:30 講演② 小松雅子氏

15:20 座談会・質疑応答・まとめ

16:15 閉会

【参加費】 500円